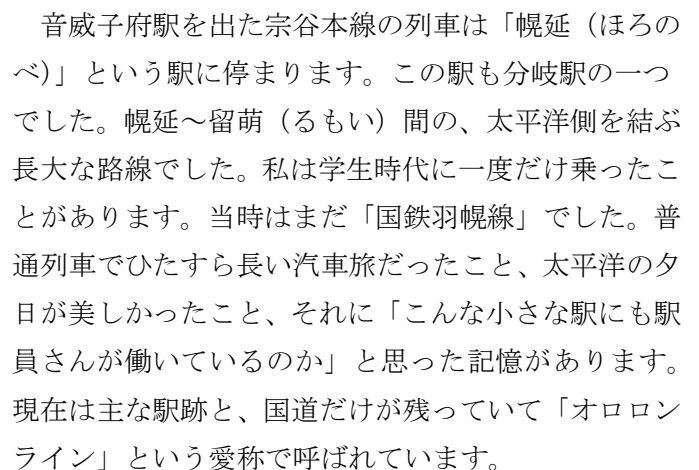
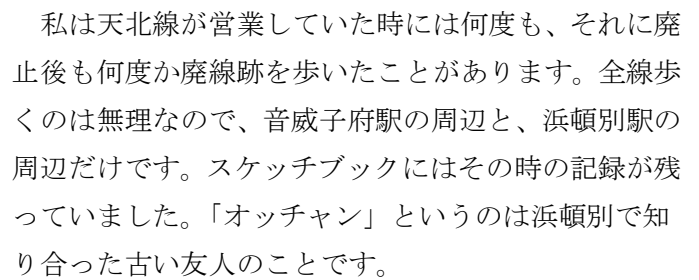
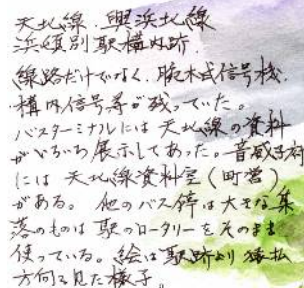
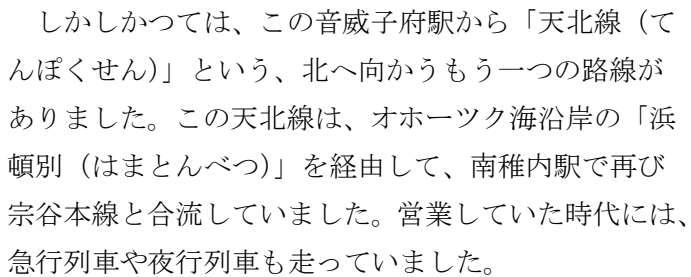
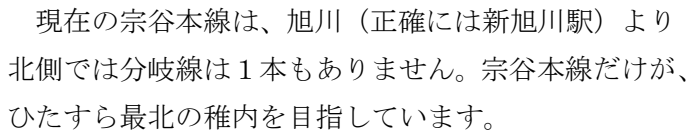


「北海道一周鉄道旅行 (15)」

田中 千尋 Chihiro Tanaka





その幌延駅を過ぎると、いよいよ人に気配が少ない地帯に入ります。幌延の隣駅の「糠南駅」も「下沼駅」も乗降客が少なく、存続が危ぶまれている駅です。



南稚内までの駅で、人の生活がしっかり感じられる最後の駅が「豊富駅」です。以前この駅の近くにある「豊富温泉」に泊ったことがあります。旅館と称していましたが、どちらかと言うと民宿でした。その頃はそれなりに栄えていましたが、今はすっかりさびれてしまっています。豊富の次は「兜沼（かぶとぬま）」ですが、この駅も何度も廃止の危機に陥っています。学生時代に「兜沼キャンプ場」で、仲間7人とキャンプをした思い出の駅です。



兜沼駅を過ぎると、列車はなだらかな宗谷丘陵の中

を進みます。もう人家はほぼ見かけなくなり、時々牧草地や牛の姿が見えるだけです。



(産総研地質図)

このあたりの宗谷丘陵は、「新生代・第四紀・チバニアン期」の地層が点在しています。列車の車窓に見える風景を地質図にあてはめて眺めると、またちがった見え方になって、とても楽しいです。



南稚内の手前には、宗谷本線随一の大パノラマが待っています。冬はこんな景色になり、遠くの洋上に「利尻富士（りしりふじ）」が見えるのです。



この区間では列車は徐行運転をしてくれます。残念ながら洋上は霞んで、利尻富士（利尻岳）は「見えた気がしただけ」で、実際は見えなかった、と思います。しかし車内には「見えた！」という方もいました。